



2024事業計画(FY2024～2026)

～FY2030にありたい姿へ向けて～

2024 年 6 月 19 日

 ベル・エンジニアリング株式会社



目 次

0.	ビジョン	P.3
1.	中長期の方向性	P.4
2.	事業領域	P.6
3.	事業セグメント	P.7
4.	中長期の数値目標	P.8

0. ビジョン

ベル・エンジニアリングはガバナンス・コミュニケーションを強化しつつ
基本理念である「バーチャル技術を駆使してリアル社会の発展と環境保護に
貢献する」ことを社会的使命として、新たな価値創造の歩みを進めていきます。

マテリアリティの設定

企業が長期的に成長するためには経営において3つの観点が必要



(Environment: **環境対応**)

○生産プロセスの環境負荷低減: フロントローディング推進



(Social: **社会責任**)

○エンゲージメントの向上: 労働生産性の向上、健康経営の推進

○ウェルビーイングの向上: 人材の定着する環境作り

○ダイバーシティの推進: 人権の尊重、人材の育成・確保



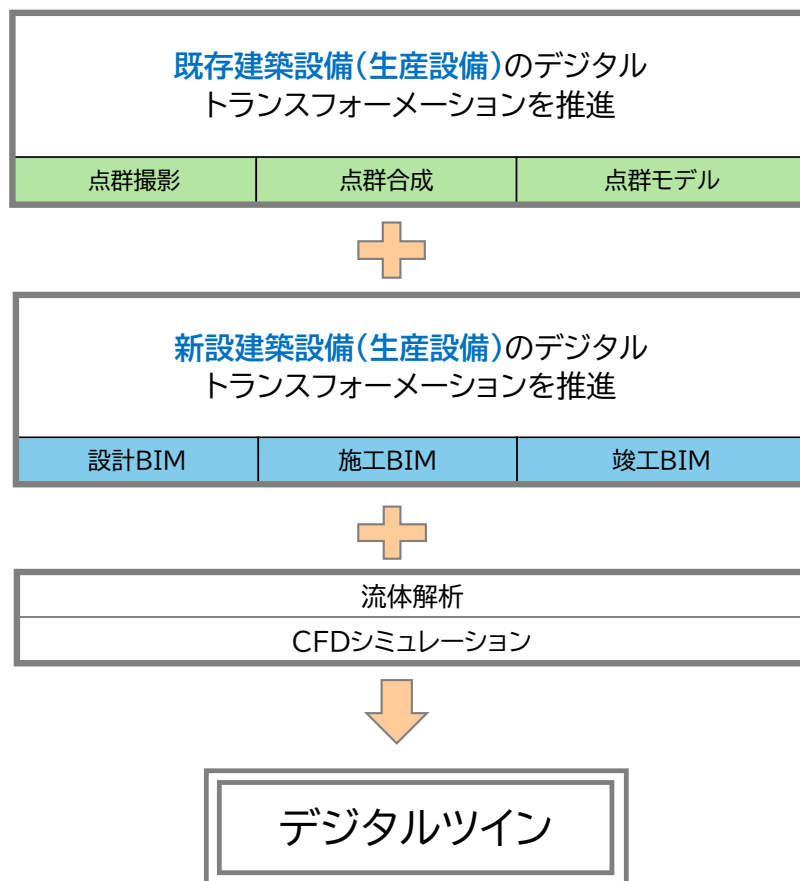
(Governance: **企業統治**)

○コーポレートガバナンスコードの主旨を踏まえた体制の強化

1. 中長期の方向性

I. Environment

○生産プロセスの環境負荷低減:フロントローディング推進

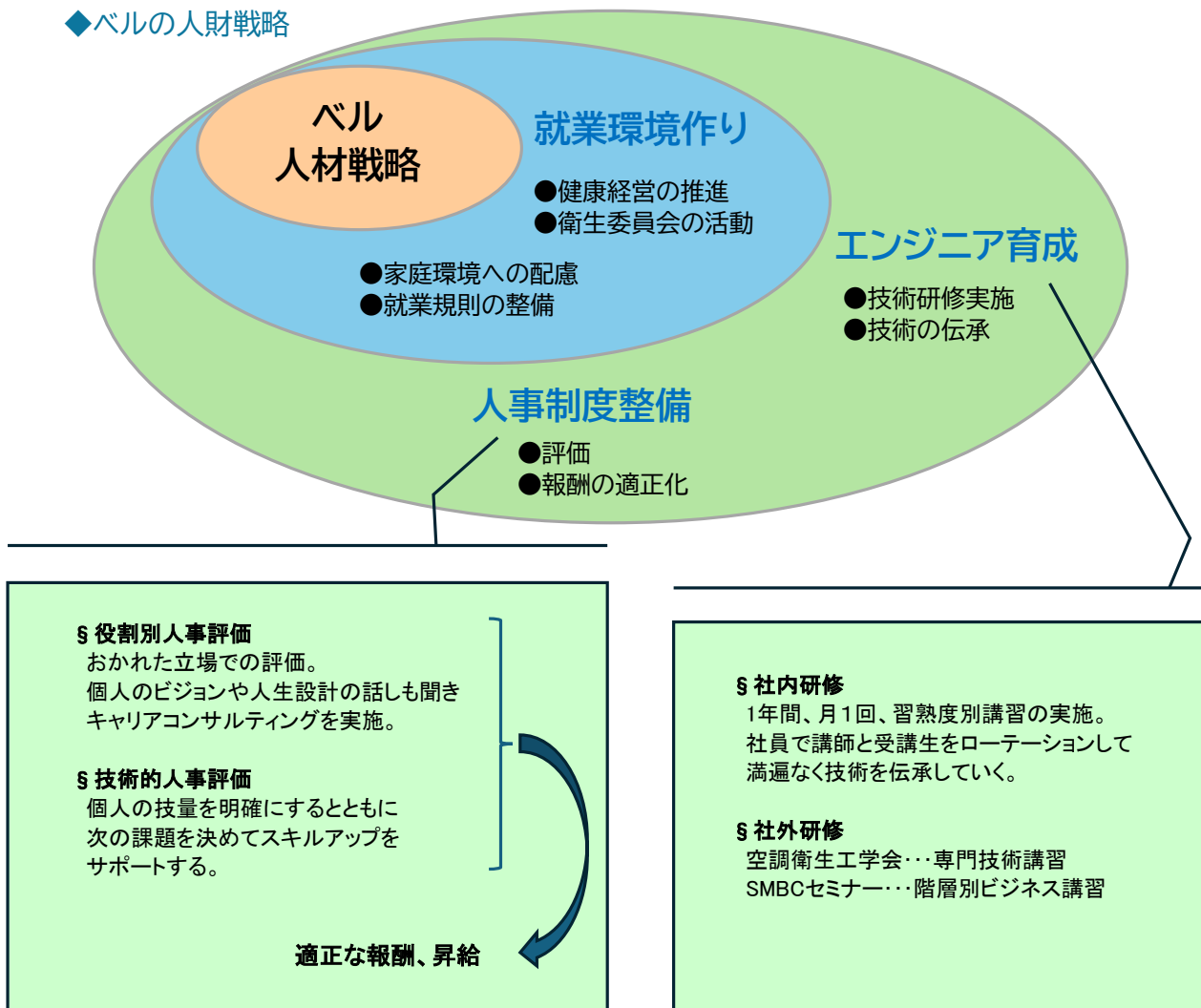


II. Social

- エンゲージメントの向上:労働生産性の向上、健康経営の推進
- ウェルビーイングの向上:人材の定着する環境作り
- ダイバーシティの推進:人権の尊重、人材の育成・確保

人材こそ財産と考え、社員とその家族の健康と安全を守り、
技術の伝承を行ってエンジニアを育て、社会に広く貢献したい。

◆ベルの人財戦略

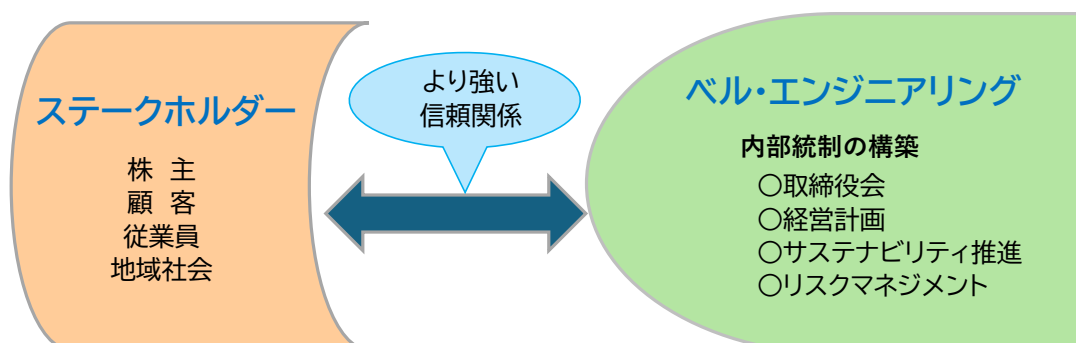


III. Governance

○コーポレートガバナンスコードの主旨を踏まえた体制の強化

企業が透明性を保ち、適切に企業統治に取り組んでいる
ことを公開し、株主をはじめ顧客・従業員・地域社会等の
ステークホルダーから信頼していただける企業体を目指す。

◆ベルのガバナンス戦略



2. 事業領域

i-Construction2.0～国土交通省

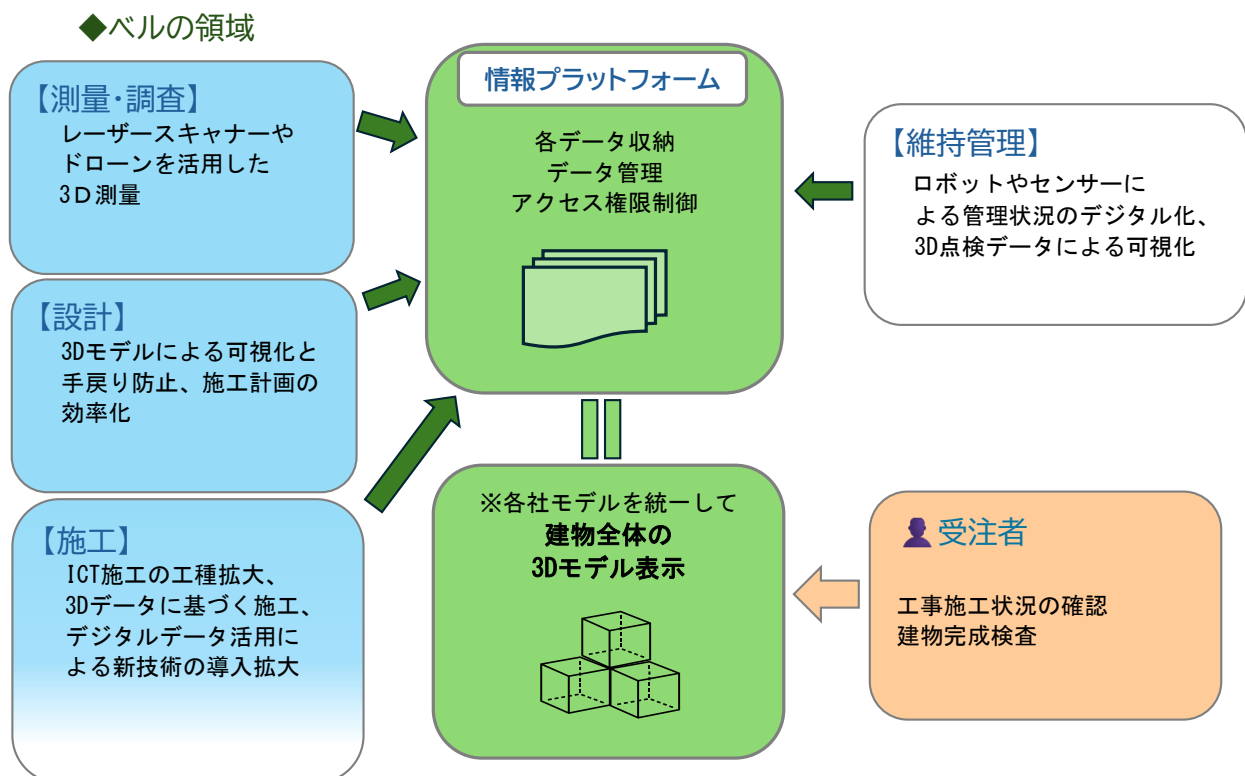
デジタル技術を最大限活用し、生産プロセスのオートメーション化に取り組み、少ない人数で安全に快適な環境で働く生産性の高い建築現場を実現させることを目指す。

○データ連携のオートメーション化(デジタル化・ペーパーレス化)

BIM/CIMによる建設生産プロセス全体のデータの連携に努力し、
3次元モデルの標準化とそのモデルを工事契約書などに活用。
またデジタルツインの活用による現場作業の効率化や
現場データの活用により、ペーパーレス化、監理の高度化、
検査の効率化を目指す。

○施工管理のオートメーション化(リモート化・オフサイト化)

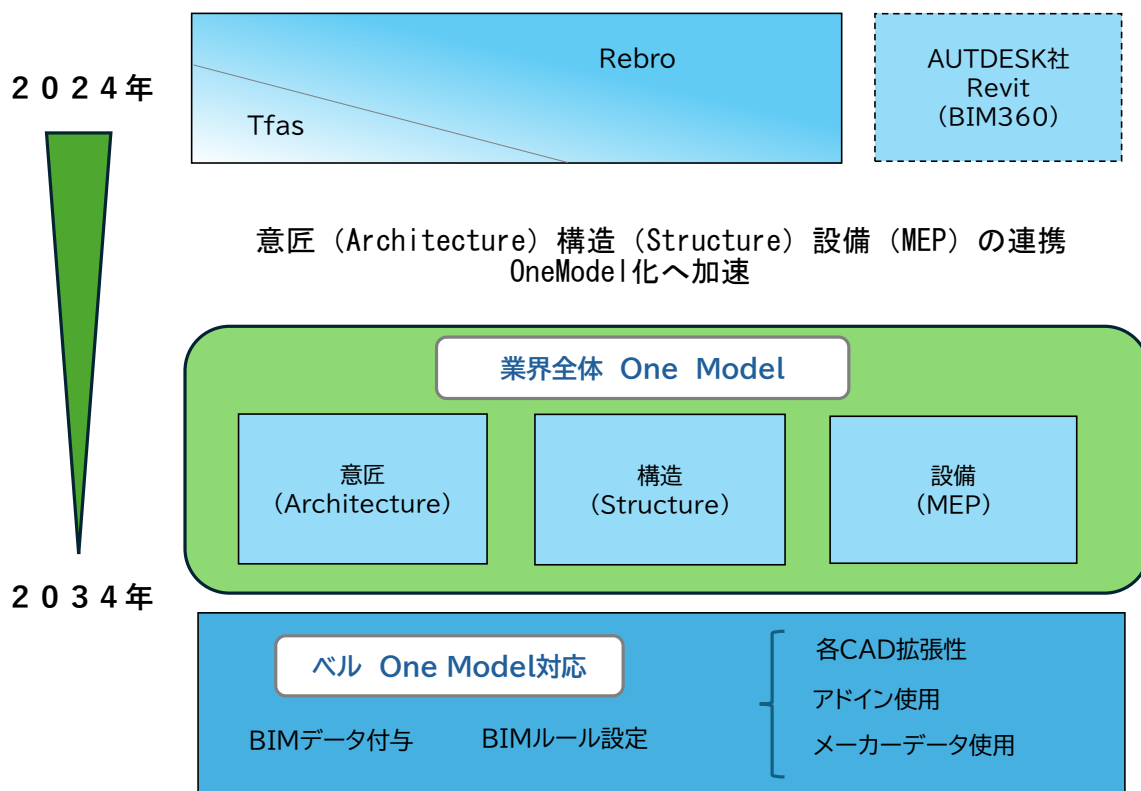
高速ネットワークを整備の上、建設現場のリモート化やオフ
サイト化を推進して現場作業をサポートする。



3. 事業セグメント

○設計BIM・施工BIM 対応

現段階では、(株)NYKシステムズ社の設備専用CAD『Rebro』の社内比率を上げてBIMに対応していくが、客先のニーズによりAUTODESK社のRevit (BIM360含む) も視野に入れ幅広い対応をしていく。



BIMでのOneModel化が進めば、設計・施工・積算・監理・運用とのデータの連携する率が上がる＝**業界のオートメーション化**。

○BIMが担うと考えられる役割・機能

Process

コミュニケーションツールとしての活用、
設計施工プロセス改革等を通じた生産性の向上

建築物の生産プロセス・維持管理における
情報データベース
ライフサイクルで一貫した利活用

Data Base

Platform

IoTやAIとの連携に向けたプラットフォーム

4. 中長期の数値目標

◆財務指標の時系列推移

中期事業計画	2017	2020	2023
売上高（億）	4.69	4.01	4.10
経常利益率（％）	5.2	2.9	6.1
ROA（％）	11.85	5.55	10.04

※数値は事業計画の最終事業年度の値

◆2024事業計画の数値目標

事業年度	FY2024	FY2025	FY2026
売上高（億）	4.34	4.56	4.79
経常利益率（％）	4.0	4.0	4.0
ROA（％）	15.0	15.0	15.0

※ROA：経常利益／総資産×100